

平成26年度「男女共同参画推進協議会」開催報告

平成27年3月3日(火)
於・学術総合センター

平成27年3月3日(火)に東京・竹橋の学術総合センターにおいて「平成26年度男女共同参画推進協議会」を開催いたしました。今回で3回目となる本協議会では、全国51高専より約70名の男女共同参画取組責任者等が一堂に会し、より一層男女共同参画を推進するために、各校及び機構本部が、それぞれ果たすべき役割を認識して、密接な連携のもとに取り組むべき具体的方策について協議や情報交換を行いました。



★協議会会場



午前の部では、開会挨拶として国立高等専門学校機構 小畑秀文理事長より、各校の男女共同参画取組責任者等の本協議会参加への謝辞が述べられ、高専における男女共同参画推進への取組に言及され、本格的な取組開始は早くはなかったが、身を結びつつある結果が出ているので、今後さらに推進するようこの協議会での情報交換を重要な機会を捉え、実り多い場になることを期待したいとお話がありました。



続いて、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課 藤江陽子課長より、毎年各校の責任者等が集まり、男女共同参画の取組・方策について協議する機会を設けている事や、意欲的に行動計画を制定し、着実に進展していることへの期待について述べられ、我が国・高等教育機関における男女共同参画の現状、女性活躍をめぐる最近の政府の動き、高等教育機関の男女共同参画推進への文部科学省関係の主な支援策についての説明がありました。

★小畑理事長(上)、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課 藤江陽子課長(下)

次に、国連女性の地位委員会日本代表の 橋本ヒロ子 十文字中学・高等学校長による『高専における女性研究者の発展に向けて』と題された特別講演が行われました。ご講演では、「なぜ日本には理系女子が少ないか」という副題より、世界と日本の理系女子の現状、世界の男女格差指数、日本社会におけるジェンダー意識等について説明がありました。参加者からは「教員、校長、市民活動者のそれぞれの立場からの視点がわかるように説明してくださり、参考になった」、「男女共同参画に関するキーワードが「長時間労働」だということは今まで気付かず、とてもためになった」、「我々の無意識の慣習にかかわる深い問題だと感じた」、「女性トップの視点からの「実感」のある指摘、コメントは問題認識の顕在化に有効であるため、個別の高専にもきていただきたい」などの声が多数ありました。



★十文字中学・高等学校長 橋本ヒロ子先生(左)と質問する参加者(右)

午後の部では、事例発表を中心としたプログラムを実施しました。事例発表開会挨拶として、国立高等専門学校機構男女共同参画推進委員会委員長 大島まり理事より、男女共同参画は女性だけの問題ではなく、社会の問題として捉えることが大切であり、各校の取組事例をお互いにシェアし、またこの場限りではなく、それぞれの高専に持ち帰り、学校内でのシェアを行うことにより、高専全体に浸透してほしいという期待が述べられました。

事例発表では、男女共同参画推進モデル校5校(函館、富山、鈴鹿、呉、高知)における取組事例発表からはじまり、続いて、男女共同参画推進における特色のある取組を実施している高専3校(一関、長野、和歌山)の事例発表がありました。各校の事例発表者からは、配付資料やスライドを通して意識啓発活動、各種イベント等の取組事例について情報提供が行われました。参加者からの質疑時間も設け、活発な質疑応答も行われました。



★大島理事

参加者アンケートでは、「事例発表各校の取組やアイデアがとても参考になった」、「自分の高専で活用できるよう進めたい」などの声が多数ありました。

<男女共同参画推進モデル校の事例発表>



★上左から函館高専 濱先生、富山高専 山腰先生、
鈴鹿高専 白木原先生
下左から呉高専 松野先生、高知高専 永原先生



★会場・会場からの質疑の様子

<特色のある取組事例発表>



★一関高専 松尾先生、長野高専 小澤先生、和歌山高専 岸本先生

閉会の前に、国立高等専門学校機構 紀聖治理事より、各校への男女共同参画取組アンケート調査の結果から、まだまだ高専毎に取組意識に温度差があることに言及され、本協議会での情報を持ち帰り、それぞれの学校の中で特色を活かしながら取組むこと、男女共同参画が当たり前の日本社会になること、そして女性の感性を取り入れた今後の工学系分野へのそれぞれの期待についてのお話がありました。



最後に、閉会の挨拶として国立高等専門学校機構本部事務局 内山祐二郎次長（男女共同参画推進室長）より、年度末の忙しい中での本協議会参加および事例発表への謝辞と今後のより一層の取組を期待が述べられたあと、本部主導だけでなく各校それぞれの改革や取組が必要であることや、本協議会での取組情報や資料を見直し、各学校で広く共有し、積極的に取り組んでほしいと挨拶がありました。